【湘南ベルマーレ】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
髙橋　直也、石井　久継

この度、髙橋　直也　選手と石井　久継　選手がクラブで販売するグッズの商品企画からデザインまで携わり、プロデュースグッズを作りました。
プロデュースグッズはＴシャツとキャップの 2 種類で、2 選手の名前と背番号をロゴ化　してワンポイントとして入れました。
完成したグッズは、2024 年 8 月 17 日（土）明治安田 J1 リーグ 27 節柏レイソル戦で販売しました。

この研修は、クラブにはどのような方々が関わっていて、クラブスタッフはどういう想いで働いているかを理解してもらうことを目的としています。また、自分で企画して実現した商品を自分が発信して販売することで、実行力と責任感を身につけてほしいことを狙いに行いました。

◎選手のコメント
髙橋　直也　選手
今回の研修を経て、改めて感じたことが二つあります。
一つ目は、たくさんの方のご尽力があって、試合運営やグッズ販売等ができていること。そのおかげで僕たちも良い環境の中サッカーができているということです。二つ目は、たくさんの方が湘南ベルマーレ、そして僕たちのことを応援してくれているということです。
今回の経験で得た感謝の気持ちを、1 人のプロサッカー選手として、結果や行動で伝えていけるよう精進したいと思います。

石井　久継　選手
今回の研修でグッズ制作に携わり、どんな人向けて作るのか、どういう商品なら喜んでいただけるのか、さまざまな角度から考えたことで、その過程にはたくさんの方の協力があることを学びました。
僕は実際に試合会場のブースで販売のお手伝いにも参加しましたが、たくさんの方に手に取っていただけたこと、直接応援の言葉をいただけたことで元気をもらいました。
今度は僕がピッチで元気を与えられるように頑張ります。

写真提供／湘南ベルマーレ

グッズブース
1日店長
16:30~17:15

【湘南ベルマーレ】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
髙橋　直也、石井　久継

2024 年 10 月 28 日（月）、神奈川県立秦野支援学校で、髙橋 直也 選手と石井 久継 選手が「支援学校・障がいに関する理解向上、共生社会に対する深究心を持つ」ことを目的としたシャレン！活動を行いました。

① 地域・社会課題：
障がいに関する認知の低さ、支援教育の現場と地域社会との関係を深める機会の少なさ

② 協働者：INCLUSIVE HUB SHONAN/神奈川県立秦野支援学校/湘南ベルマーレ

③活動概要や内容、目的
神奈川県立秦野支援学校に訪問して知的障害高等部の授業へ参加しました。
参加にあたり、事前に学校の先生にご来社いただき、支援学校についてご説明をいただきました。
支援学校は少人数の学級編成になっていて、それぞれの障がいに合わせた指導を各部門ごとに行っていることを学びました。
当日は、体育館で知的障害高等部の生徒の皆さんとボールを使ってパス交換をしたり、質問コーナーではたくさん質問をいただいて積極的にふれあい、コミュニケーションを図ることができ、貴重な時間になりました。
支援学校の生徒の皆さんは、全員がそれぞれ異なる障がいを抱えています。しかし、選手を目の前にすると笑顔で挨拶してくれたり、「頑張ってね！」と声をかけてくれたり、ものすごい元気とパワーを与えてくれました。我々は年間 20 試合をホームスタジアムで行っていますが、障がいの壁を超えて誰もがスタジアムで楽しめる環境作りおよび運営をしていきたいと改めて感じました。

◎選手のコメント
髙橋 直也 選手
今回、秦野支援学校の授業に参加させていただきました。
生徒の子どもたち、先生方がとても温かく迎え入れてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。
また、みんなと交流する時間はとても楽しい時間になりました。
今回の活動で感じたことは 2 つあります。
1 つ目は、どんな分野にいても頑張り続けることは大事だということです。子どもたちを見ていると、楽しんでいる趣味、将来就きたい仕事のために真剣に取り組んでいる姿が多く見られました。
2 つ目は、自分たちはたくさんの方に応援していただけているということです。子どもたちと触れ合う時間の中で「写真を撮って欲しい」「サインを書いて欲しいと」と、嬉しそうに喜んでくれていた笑顔がとても印象的に残っています。

最後に、今回の活動で得ることができた経験、想いを忘れずに自分も頑張り続けて、たくさんの人に夢を与えられるような選手になりたいと強く思いました。

石井 久継 選手
今回活動を通して、子どもたちや先生方と触れ合うことができてすごく楽しかったです。
一緒にボールを蹴ることも質問コーナーも、みんな積極的に参加してくれて凄く嬉しかったですし、その姿に元気をもらいました。
短い時間の中でしたが、少しは湘南ベルマーレのこと、そして僕や直也くんのことを覚えてもらえたのかなと思います。
僕はもっと試合に出て、ピッチの上でファンサポーターの皆さんに元気を与えられるようになりたいし、今後もこのような社会貢献活動に積極的に参加し、サッカー選手として地域の皆さんにも元気を与えていきたいと思いました。

写真提供／湘南ベルマーレ